

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生き生きと支え合って暮らせる地域づくりの推進
-------------	-------------------------------

現状と課題

伊達市ニーズ調査では、外出頻度について「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答した高齢者が約20%だった。さらに、趣味のグループやボランティア等へ参加していない高齢者は約30～40%いる状況となっている。高齢者が元気で生き生きと暮らすためには、その知識や経験、能力を発揮できる機会を確保し、生きがいや充実感を高めることが大切となる。

少子高齢化が進む中で、介護保険サービス等の公的サービスに加え、住民同士の支え合い・助け合いといった「互助」が重要となることから、地域との話し合いの場を設けながら取り組みを進める必要がある。

第7期における具体的な取組

- ・日常生活の支援体制整備

目標（事業内容、指標等）

○生活支援体制整備事業

（事業内容）

- ・生活支援体制整備協議体
- ・生活支援コーディネーターの活動支援
- ・支え愛★地域づくり座談会
- ・生活支援サービスの創出

（指標）

- ・支え愛★地域づくり座談会

項目	2018年度	2019年度	2020年度
開催地区数	6	8	10
座談会開催数	24	26	28

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・支え愛★地域づくり座談会の開催地区数及び座談会開催数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和 2(2020)年度
----	--------------

実施内容

・ 支え愛★地域づくり座談会

新型コロナウイルス感染症の影響により、座談会の開催等地域での活動は実施でなかったが、事務局ではこれまでの活動に対する評価のまとめを行った。

自己評価結果【○】

感染予防対策として、対面形式での開催が困難となり地域での座談会を開催することができなかったが、事務局でこれまでの活動に対する評価のまとめを行い、今後の方向性について検討することができた。

課題と対応策

これまでの活動から明らかになっている地域の課題を、地域の方と共有し、具体的な取組（例：「生活手助け・安否確認」）につなげていくこと、取組に必要な担い手の確保が今後の課題。
今後、生活支援コーディネーターを中心に、地域との話し合いと並行して、担い手も含めた地域資源の発掘にも取り組んでいく。